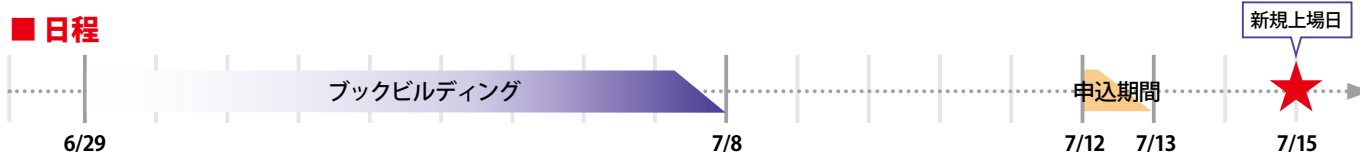


IPO銘柄 LINE (3938・東証所属部未定)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
3938	100株	公募: 3,500.00万株 売出: 0株 (OA525.00万株)	2,700円~ 3,200円 (一)	野村証券



「LINE」を日本ほかアジアなど世界で展開

■ 事業内容

モバイルメッセージアプリ「LINE」によるコミュニケーション、コンテンツ、広告などのビジネスを展開。日本のほか、アジアなど世界230以上の国と地域でサービスを提供しており、16年3月末時点の月間アクティブユーザーは2億1,800万人に達する。収益はコミュニケーション及びコンテンツと広告に大別。コミュニケーションではトーク、スタンプ、無料通話などのサービスがあり、コンテンツではゲーム、マンガなどを提供。広告では広告主のアカウントを作成し、アカウントを登録したユーザーに直接メッセージを送信。また、スポンサードスタンプとして、広告主のブランドや製品、サービスのプロモーションの一環としてユーザーにスタンプを提供することができる。

■ 特徴

サービスを提供する地域は広いが、全アクティブユーザーの7割は日本、台湾、タイ、インドネシアの4カ国が占める。なお、ラジオ型音楽配信サービスからは撤退。一方で新サービスの開発に積極的で、16年3月にはMVNO（仮想移動体通信事業者）事業へ参入し、格安スマホ「LINEモバイル」のサービスを開始することを発表している。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年12月期の業績予想を非開示としているようで判断材料が少ないが、第1四半期（16年1～3月）の売上高は前年同期比19.0%増の334億円、営業利益は同3.8倍の53億円を計上している。足元、ゲームで提供する「LINEディズニーツムツム」などの課金売上高が順調に推移する。

■ 定性分析

国内で高い知名度を誇る。ただ数年前から上場観測があっただけに、株式市場の物色テーマとしてはやや時期遅れとなってしまう。また、東証上場前日にニューヨーク（NY）市場に上場を行うことから、東証の初値はNYにおける終値が強く意識されることとなる。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約1,288億円。ただ、公募株式のうち2,200万株は海外で行う見通しのため、見た目ほどの重さはない。東証1部への直接上場が確実視される案件だけに、個人投資家以外の買い需要も見込めるため、下値不安は乏しいとみられる。
(小泉健太)

■ 類似企業

銘柄名	所属部	予想PER(一) (仮条件上限)
LINE(3938)	東証所属部未定	---
ミクシィ	(2121・マザーズ)	予想PER6.2倍
グリー	(3632・東証1部)	予想PER11.5倍

■ 引受証券

野村証券、三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券、ゴールドマン・サックス証券、JP モルガン証券、みずほ証券、大和証券、SMBC 日興証券、SBI 証券、東海東京証券、マネックス証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	税引前利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年12月期(実績)	86,366	2.2 倍	6,262	黒転	2,004	黒転	24.1	—
15年12月期(実績)	120,669	39.7	-12,033	赤転	-7,972	赤転	-43.3	—
16年12月期(会社予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年12月期	174,992,000	85,663	12,496	12,596	71.4	14.6	36.2
15年12月期	174,992,000	122,159	17,743	12,596	101.4	14.5	▲ 50.1

大株主上位 (上場前)

	氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1	NAVER Corporation	174,992,000	87.27
2	シン ジュンホ	10,264,500	5.12
3	イ ヘジン	5,572,000	2.78
4	イ ジュンホ	1,638,000	0.82
5	パク イビン	109,000	0.05
6	出澤 剛	96,500	0.05
7	舩田 淳	94,500	0.05
8	キム ソンフン	90,000	0.04
9	ヤン ヒチャン	80,000	0.04
10	コ ヨンス	74,500	0.04

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長 CEO	出澤 剛
取締役 CGO	シン ジュンホ
取締役 CSMO	舩田 淳
取締役会長	イ ヘジン
取締役 CFO	ファン インジュン
取締役	國廣 正
取締役	小高 功嗣
取締役	鳩山 玲人
常勤監査役	倉澤 仁
監査役	キム ジンヒ
監査役	金井 高志

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。